●ボランティアリーダー育成事業

ボランティア・NPO活動センターでは、本学の学生を対象に、ボランティアリーダーの育成を目的としたセミナーやワークショップを行っています。入門コース「ボランティア入門講座」は、ボランティアについての基礎的な講義とボランティア体験を行うプログラムで、ボランティア初心者の学生向けに実施しています。また、応用コース「ボランティアリーダー養成講座」は、センターを運営する学生スタッフや既にボランティア活動やサークル活動を行っている学生を対象に、スキルアップや組織運営の向上を目指した内容となっています。

企画名	ボランティア入門講座	
報告者名	西島　有恒（瀬田キャンパス　コーディネーター）	
	深草キャンパス日時／参加人数	瀬田キャンパス日時／参加人数
第１回	５月17日(木)17時30分～ 19時30分／ 34人	５月14日(金)17時30分～ 19時30分／ 43人
第２回	2010年６月中に計７ヶ所で体験を実施／参加者73人	
第３回	７月５日(月)17時30分～ 19時00分／ 23人	７月２日(金)17時30分～ 19時00分／ 33人
実施主体	ボランティア・NPO活動センター	

■経緯・目的

今年度新たに登録した学生スタッフとボランティアに関心のある学生を対象に、ボランティア活動のきっかけづくりと将来のボランティアリーダーを育てることを目的とし講座を企画しました。

今年度は学生スタッフのスキルアップを目指し、学生スタッフも企画・運営などに携わりました。

■概　　要

第１回目では、ボランティアの基礎的な考え方について講義形式で学び、第２回目でボランティア体験を行いました。第３回目では参加者全員で体験をふりかえるグループワークを行った後、ボランティアを募集している団体を紹介しました。

【第１回】『ボランティアって何だろう？』
講師（両キャンパスとも）：田辺　尊史氏
（京都市市民活動総合センター　事業コーディネーター）
内容：ボランティアの概念や知識、ボランティア観について講義やワークを通して学ぶ。

【第２回】ボランティア体験プログラム
体験先／内容

① 子ども 深草児童館
　児童館に来た子どもたちと一緒に遊んだり、安全に遊べる　ように見守りなどを行う。

② 福　祉 タンタンおもちゃライブラリー
　障がいのある子どもたちと一緒に調理したり遊んだり、安全に遊べるように見守りを行う。

③ 国　際 （財）京都YWCA
　「あじさいバザー」での食堂での調理や売店での販売などの手伝い。

④ 環　境 NPO法人　竹と緑
　ビオトープ（生物群の生息場所）づくり作業の手伝い。

⑤ 環　境 京エコロジーセンター
　「エコセンうきうきまつり」の館内案内、イベントの補助など運営の手伝い。

⑥ 子ども／文化・芸術 Art Revolution滋賀
　親子参加のアートワークショップでの受付や子どもたちの創作活動のサポート。

⑦ 福　祉 知的障害者授産施設　みずほ

施設のお祭りでの模擬店での販売や遊びコーナーでのサポート。

【第３回】『ふりかえり』

- 活動風景の写真を見ながら、参加した活動について発表。
- 個人のふりかえり。（シートの記入）
- 数グループに分かれ、学生スタッフやコーディネーターなどが進行し、参加者が感じたことなどを発表し、グループで共有。
- 夏休みなどに参加できるボランティア活動などを紹介。

■コーディネーター所感

今年度は過去の受講者でもある学生スタッフが講座へ参画することで、学生スタッフがプログラムの組み方などを学ぶことでできたと思います。

振り返りの内容も細かく検討し、参加者同士で体験を語りあうことで、「人によって感じたことが違っていた」という新たな気づきや「ボランティアをしたいと思っても、一歩を踏み出せなかったが、講座で背中を押してもらえた」といった声もあり、本講座として目的どおりの成果があがっていると感じました。

また、全３回を振り返っての満足度が深草84.9％、瀬田83.1％と両学舎とも高い満足度が得られました。講座後に他のボランティア活動に参加する学生や、昨年度受講した学生が今年度相談に来るなど、その後の活動につながっているといった例もあります。

今後は講座参加者へのフォローアップとともに、学生スタッフが参画することでの受講者へのメリットをさらに活かせるように検討し、興味・関心をもっているがきっかけがない学生へ講座などを含め、さらにアプローチをしていきたいと考えています。

企画名　タイトル	第１回ボランティアリーダー養成講座 意見がサクサク出るミーティングをしよう！～ファシリテーション入門講座～
報告者名	竹田　純子　（深草キャンパス　コーディネーター）
日　　時	2010年９月21日（火）13時00分～ 16時00分
場　　所	深草キャンパス　21号館401号室
実施主体	ボランティア・NPO活動センター
参加人数	51人（深草14名・瀬田37名）

■経緯・目的

サークル情報交換会や通常の学生スタッフとのかかわりの中で、ミーティングにおけるファシリテーション力の必要性を訴える声をよく聞くことから、学生スタッフや一般サークルに所属する学生を対象にファシリテーションについての研修を実施することにしました。

今回の研修では意見が出やすい場作りと、意見の共有の方法としてのホワイトボードミーティングについて学び、すぐにでも参加者それぞれのミーティングの場で役立つようになることを目標に、この講座を企画しました。

■概　　要

ファシリテーションとは何かを理解し、そのマインドを活かしながら、効率的、効果的な会議の進め方を学び、今後の活動に活かしていくということゴールにファシリテーションの講座を実施しました。

実施内容は以下の通りです。

①講師自己紹介
②ファシリテーションについての講義
③２人で自己紹介し、片方が席をずれて自己紹介をするというワーク
④ホワイトボードを使って、人から意見を引き出す方法の講義と、ホワイトボードに書いていく方法の実演
⑤４人から～５人のグループになって話を引き出す練習
⑥同じグループで、テーマ「クリスマスのイベントを決める」を実施
⑦まとめ

講師：人まちファシリテーション工房
　　代表　　ちょん　せいこさん

■参加者の声・得られた効果など

参加した学生のアンケート結果では、平均満足度が93％と非常に高く、「改めて、普段自分が参加している会議も見つめなおすことができました。」「今まで人前に立つことをさけて苦手意識が強かったが、小さいミーティングからでも挑戦してみたいとおもった。」などの意見があり、自分の今までのミーティング運営の仕方を見直したり、チャレンジ目標をつくるなど、この研修をきっかけに、自分自身のことを考え、これからのあり方について考える機会になっていたように感じています。

■コーディネーター所感

今回は初めて学生スタッフ以外の学生の参加がありました。サークル情報交換会や野宿者支援で参加している学生で、今までファシリテーション等について学ぶ機会がなかったので、良い機会になったようです。学生スタッフにとっても、内輪だけではなく、多様な参加者がいる状態は、今後のコーディネートなどにも生きてくるかと思いますので、学生スタッフ外の参加者ももっと増やしていければと思います。

ワークなどを取り入れながら、ある一定程度のレベル学べるようにするとすれば、開催時期が十分な時間が取れる長期休暇になってしまいます。長期休暇にわざわざ出てきてセミナーを受講してもらうには、受講する意義の理解を深めてもらう必要があり、まだまだ一般学生に対しての広報力を強化できるように工夫が必要だと痛感しました。

研修自体は参加者の満足度も高く、早速ミーティング等で実践する姿も見られました。

企画名　タイトル	第２回ボランティアリーダー養成講座 等身大の地域づくり体験談～ぼくが出会った地域と、「聴く」ことからつくる企画づくり～
報告者名	竹田　純子　（深草キャンパス　コーディネーター）
日　　時	2011年２月８日（火）13時30分～ 16時30分
場　　所	深草キャンパス　21号館401号室
実施主体	ボランティア・NPO活動センター
参加人数	28人（深草15名・瀬田13名）

■経緯・目的

「地域に関心がある」と話す学生は多いが、どう関わっていけば良いのか分からず、独りよがりな活動に陥ってしまっている場合があるように感じています。

そこで、学生時代から地域に関わった活動に

参加し、現在は職業として地域づくりに関わっている方を講師として招き、今までの経験談、地域活動の中から学んだこと、地域から聴いたことを企画としてまとめていくための方法などを講義していただきました。

今回の研修をきっかけに、学生が地域との関わり方を学び、地域と協働しながら学生ならではの力を発揮できるようになることを目指しました。

■概　　要

実施内容は以下の通りです。

①講師自己紹介と仕事について
②地域に関わる体験談と作法
③質疑応答
④聴く技術、聴いたものを形にする技術っ
- 説　明：聞く技術
- ワーク：ウォンツ・エイブル分析
  実際に分析表を使って参加者が今まで関わった企画を分析

⑤企画をつくる技術について
⑥まとめ・質疑

講師：NPO法人　地域再生機構
　　森　大顕　さん

■参加者の声・得られた効果など

参加者から寄せられた声は以下の通りです。企画を作ったり、ボランティアコーディネートをしていく上で、役に立つと言う声が多数寄せられています。

- 説明が実体験に基づき、私も地域で活動していたので、共感することが多く、いろいろ考えさせられた。
- 企画を立てる上で、大切なことをいろいろ知れて、やる気が出た。色々な視点からの考え方があるなと思った。
- 企画に関わってきた中で、大事なことを思い返すきっかけにもなりました。
- 実際に、地域に行ってプロジェクトを行った方の話を聞けたのは、とても嬉しかったです。私も将来は、自分の地元が元気になるような活動をしたいと思っています。
- 地域の事を考えずに、企画をしようとしていました。今、気づくことができ、地域の声、地元の声の大切さや自分達が赴いて、努力することの大切さを学ぶことが出来た。　　等

■コーディネーター所感

平均満足度が約83％と、参加者の中で満足度のバラツキが見られました。そもそもこの講座は既にボランティアを経験している人向けの講座であるので、１回生の経験の少ない学生にとっては、共感を持って話を聞くことが難しい場面もあったからではないかと思います。全体的には、学生と年代的にも近い講師が、実体験に基づき、成功事例、失敗事例を具体的に話していただけたので、参加した学生にとっては考えさせられる部分や共感する部分が多々あったように感じています。

参加した学生の中には、「今まで自分が取組んできたことをどう生かしていくことが出来るのか」ということについて考えている学生も多く、学生時代にボランティアとして地域にかかわり、社会人になってからは職業として地域にかかわっているという、キャリアモデルを学生に示すことが出来た貴重な機会だったように思います。

企画名　タイトル	第３回ボランティアリーダー養成講座 みんなのチカラを生かすにはコツがある！～プロジェクトチームを楽しもう～
報告者名	ヒギンズ　尚美　（瀬田キャンパス　コーディネーター）
日　　時	2011年３月８日（火）13時30分～ 16時30分
場　　所	深草キャンパス　21号館402号室
実施主体	ボランティア・NPO活動センター
参加人数	本学学生47人（深草 24人・瀬田 23人）

■経緯・目的

多様なボランティア活動の中でも、実行委員会形式で作り上げていくイベントなどは、学生にとっても達成感のある活動の一つなのではないでしょうか。本学にも様々な委員会やサークルなどの学生組織がありますが、運営面などで共通した課題があると思われます。また、センターの学生スタッフがたてるボランティア企画などについても、スタートとゴールがあるため、実行委員会やプロジェクトチームの一種であると考えることができます。

今回の講座では、このような活動に関わる一人ひとりが「やって良かった」「また次も頑張ろう」と思えるためにはどうすればいいのか、地域を元気にする様々な取り組みやボランティア活動の支援に関わる方から、実行委員会やプロジェクトチームをより良く運営するコツやメンバーが楽しく活動できる考え方などについて講義していただきました。

■概　　要

実施内容は以下の通りです。

①講師自己紹介・学生歴書の記入

②アイスブレイク的なワーク

- 声を出す（思ったことを口にする）
- 自己紹介カードの交換（交換相手を覚えておく）
- 見方を変える（ネガティブをポジティブに）
- 穴に落ちた時、自分ならどうするか（「助けて」を発信する）

③グループワーク

- 相手との共通点を見つける
- 相手の企画を褒める（グループごとにユニークな花見企画を考え、発表する）
- 言いっぱなし、聞きっぱなし（ミーティング前の自由なトーク）

④プロジェクトチームを運営するコツについての話

- プロジェクトチーム・実行委員会の３原則
- プロジェクトチーム・実行委員会の３層構造
- プロジェクトチーム・実行委員会の始まりと終わり
- 主人公ということ

⑤講師が事務局を務めたイベントをスライドで紹介

⑥講師の個人的な地域活動などをスライドで紹介

⑦まとめ

講師：社会福祉法人　大津市社会福祉協議会
　　副参事　　山口　浩次　さん

■参加者の声・得られた効果など

参加学生から、以下のような感想が寄せられました。

- 何らかの企画を実行するには、メンバー同士が互いに相手を尊重し合わなければならないし、何より楽しいものでなければならない。一見、当然のことのように重えながら、実際には気づきにくい事を教えて頂きました。
- サークル活動をしていく中で、自分にとってもサークルのメンバーにとってもプラスになるような思考、ワークを学ぶことができました。しかし、ワークでもっと自分という人間をアピールしたらよかったと思いました。

- 企画案を出す時に、できそうにないことでも少しひねったり、方法を変えて実行できると思えた。ほめてもらうのはもちろん、ほめることも気持ちがよく、相手をもっと好きになるなと感じた。

■コーディネーター所感

ワークや講義を含めて3時間という長時間の講座でありながら、「趣味は司会業」という講師の魅力的な語り口と楽しいプログラムで、まったく時間の長さを感じさせない充実した内容であったと思います。ワークの様子を撮影している時、参加者全員が笑顔であったのがとても印象的でした。

特に、講師の「褒める」「ポジティブに捉える」「助けて上手になる」という３点に共感した学生が多く、今後の彼らの活動に活かされることを期待しています。

一方、満足度が高かったのは学生だけでなく、我々コーディネーターにとっても、学生をいかにエンパワメントしていくのかという点やプログラム進行などにおいて、随所にヒントが散りばめられた密度の濃い講座でした。自身のコーディネーターとしての姿勢を再度見直すとともに、今回学んだことを意識して職務に取り入れ、コーディネーションの更なるスキルアップを目指す必要があると改めて感じています。

少しずつではありますが、学内サークルからの参加者なども増えてきているので、今後も学生にとって有意義な講座を提供していきたいと思っています。